

## 自社の強みを活かした 独自の新型コロナウイルス対策

コロナ対策に注力する会社も増えているが、自社の強みを活かしてマスクをつくらせている会社にコロナ対策を尋ねた。

### ミツフジ株式会社

- 所在地 東京都千代田区
- 業種 銀めっき導電性繊維、ウェアラブル生体情報システムの製造販売
- 社員 32名

新型コロナウイルスの感染拡大は、企業活動に大きな影響を及ぼした。多くの企業で、出社・通勤や会議、営業などでの通常の活動が制限されることになった。

そんななか、自社でコロナ対策グッズを製造している会社は、どのような考えから、どのような対策を採用したのか。

#### 西陣織から銀繊維マスクへ

ミツフジは、もともと京都の伝統工芸である西陣織の会社だった。西陣織では銀糸を使う。この銀糸を使った機能性繊維の研究から開発したのが主力商品の銀めっき導電性繊維「AGPoss（エージーポス）」である。

銀は導電性と抗菌性を備えているほか、人体にとって安全であることや薄く長く延ばすことができ

ることも特徴だ。

同社では、厚さ0・1～0・2マイクロメートルの銀を柔らかな糸にめっきすることによって、軽くて導電性と耐久性にすぐれた機能性繊維を開発。繊維に導電性があるため、静電気防止の機能も付加される。ナイロン繊維の表面が銀ですべておおわれた「糸の顔をした金属」である。

1990年代に登場した銀めっき繊維は当初、導電性による静電気防止効果や抗菌性・防臭性に優れた繊維製品などに利用されたが、IoT技術の進展と共に生体情報分野で活用され始めた。

同社の銀めっき繊維をウェアラブル用の電極テープや被覆線、ニット生地などに使用すると、心拍などの生体計測データが得られるからだ。

そこで、自社でウェアラブルIoT生体情報サービスに進出し、現在ではこの分野が主力事業となっている。

ウェアラブルIoT生体情報サービスとは、IoT技術によって生体情報を着衣から収集して健康管理などに活かすシステム。収集データを管理するアプリも提供し、一連のシステムをサービスとして展開している。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、こうした技術と医療用ウェアの糸を用いて対策グッズも開発。洗って使える、抗菌・防臭に優れた機能性マスクを、昨年3月から販売している。

#### 基本は「在宅勤務、オンライン会議、外出自粛」

さて同社はコロナ対策を、在宅

勤務、会議オンライン化（社内外）、不要不急の外出の自粛、の3点に絞って実施している。それぞれの概略を説明しよう。

#### ① 在宅勤務の実施

まず在宅勤務だが、昨年3月から可能な限り在宅勤務を推奨し、業務の都合で出社が必要な場合や出社が必要な部署については時差出勤を推奨している。

その後、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、いつロックダウンのような厳しい対処策が採られてもよいように、会社用のPCや会社用携帯電話を自宅に持ち帰ることを許可した。

一方で、在宅勤務には端末や通信環境の不備による生産性低下の弊害や情報漏洩などの問題もある。これに対して同社では、自宅

での通信環境整備のために在宅用のWi-Fiルータを会社で用意し、またセキュリティ強化のため安全なセキュリティシステムを再構築した。

在宅勤務は部署により困難な業務内容の場合もあるが、こうした施策により、可能な部署での在宅勤務率は平均して80%ほどになっている。

## ② 社内外における会議のオンライン化

社内の会議、取引先との打合せも原則オンラインで行なうようにした。実は同社では、もともと東京本社、京都本社、福島工場の3拠点があるため、テレビ会議システムを数年前から取り入れている。このため、従来から全社員がPCやスマホを使って行なうオンライン会議に慣れていた。

さらに現在では、テレビ会議システム以外に、取引先のニーズなどに応じてZoomやTeamsなども使っている。

一般には、「オンライン会議では効率が下がる」「コミュニケーションが希薄になる」「商談機会が減少する」「不正アクセスが起こりやすい」などのデメリットも

指摘される。

しかし同社では、いまのところ大きな問題はまったく起こらず、ほとんどの会議はオンラインで実施されている。

## ③ 不要不急の外出の自粛

不要不急の外出を避けるのはもちろんのこと、緊急事態宣言が発出された場合には、やむを得ない事情でオフィスに出勤する必要がある社員は、必ず事前に部長の承認を得ることになっている。そのほか、緊急事態宣言が発出された地域に住む社員は、上長からの要請があれば必ずそれに従うことを徹底した。

さらに昨年7月には、以上のような施策を採っていることをホームページ等で外部に公表した。

## 基本は社員ファースト

同社の取組みの基本は、社員の安全と健康を確保し、コロナ禍で



三寺歩社長

もできる限り快適な職場環境を提供することにより、業務と感染対策の両立を目指すものだ。

独自の工夫としては、何よりも社員や家族の安全を第一とした点である。

たとえば、何らかの理由で社員に帰宅困難や業務困難といった事態が生じた場合は、その経費については事前稟議なく精算を許可している。

また、3か所の各拠点ごとに社員数の数週間分の食料を備蓄した。代表取締役社長の三寺歩氏も、食事や栄養、睡眠の大事さを自ら社員に直接話しかけているようだ。



100回洗える夏マスク

さらに、冒頭でも紹介した自社製マスクである。昨年3月時点では、店頭でマスクの入手が非常に難しい時期だった。そこで、感染対策として社員とその家族のために試作品なども含めてマスクを無償提供するとともに、社員割引制度も取り入れた。

ちなみに同社製マスクは、1枚1650〜3850円（税込）の価格帯となっている。

医療用ウェアに使用している制菌機能にすぐれた糸と抗菌・防臭にすぐれた銀メッキ繊維で編み上げた「100回洗える夏マスク」や、マスク本体に抗ウイルス加工を施し内側には抗菌・防臭機能にすぐれた銀メッキ繊維を使用した「洗える抗ウイルス・抗菌防臭マスク」などがある。

どちらも繊維業とウェアブル技術開発で培ってきた技術を活かして「hamonAG（ハモンエージー）マスク」のブランドで製造販売しており、このコロナ禍に好評を得ている。

すでに何らかのコロナ対策を採っている企業は少なくないだろうが、以上のような対策も、多くの中小企業にとって参考になるのではないだろうか。

